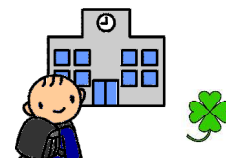


散在地域における小学校高学年渡日児童への日本語教育支援ケーススタディー ～渡日3年目・4年目の実践とDLA結果からの考察～

野洲市教育委員会 臨時的任用職員 八木 和枝



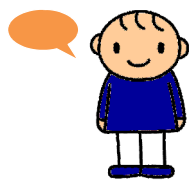
1. 渡日児童のプロフィール & 1・2年目の支援者からの引き継ぎ

A君

出身: 中華人民共和国
 母語: 中国語
 父母: 中国人
 日本の家族: 養父(日本人)、母、義妹
 家庭内言語: 日本の父と日本語。
 母と中国語。妹とは両方。
 滞日歴: 2012年4月小学校3年生に編入。
 発表者支援開始時(2014年4月)5年生。

教頭先生(初期指導担当)
 ◎『こどものほんご1』使用(?)
 ・元担任から書くことと教科の社会が苦手と聞いている。
 ・国語も学年を下げた教科書を使ったほうがいいのかも...
 ☆やんちゃだけど、気のいい子。

前任B支援員(中国語母語・通訳)
 ◎週20時間、入り込み支援を行った。
 ・教科内容は学年相当が理解できる。
 ・文法の不確かな点がある。
 ・日本人が言わないことを言うことがある。例:「悲しいー!」
 ☆活発だが、やんちゃでルールを守らないことがある。



2. 授業での課題

できる!
 自然に話す
 視写
 読解(大意の把握)
 感想や意見を持つ



苦手!

外来語 例:(音読の指示)「オーバーに」「?」
 表記 例: <国語>「こくご」<算数>「さうすう」
 (発音) <心配>「しんぱい」<新しい>「あたらしい」
 <おこられて>「うごられて」
 カタカナ
 漢字 (1～2年生まで)
 音読の速さ
 要約 発表



▲できていなくても周りに合わせ、作業を途中でやめてしまう。

3. 支援目標

- ① 平仮名・片仮名・漢字を適切に使って文章を書けるよう、書く力を伸ばす。
 - ② 教科と関係のあるピックについても流暢に話せるように、教科書の言葉を覚えて使える力を育てる。
 - ③ 日中間の移動を肯定的に捉えられるよう、中国での体験やA君ならではの発想を大事にする。
- ◎ 自信を持って授業に参加できるようになること。

4. 実践の概要

2014年4月～2016年3月
 週3時間 小学校での(おもに国語)支援
 主教材: 『新しい国語 5・6』東京書籍
 補助教材: 「こどもの日本語ライブラリ」

中国語母語話者用のプリント、
 『かんじ だいすき』シリーズ、
 埼玉県教委 国語教科書の翻訳、
 自作ワークシート、カード、実物、
 写真、予習用ふりがな・中国語つきプリント

2014年10月～2016年3月
 週1～2時間 国際協会での学習支援

仲間: 中3タイ出身生徒・ボランティア2人
 協会事務局長・日本人スタッフ・アメリカ人スタッフ(元・外国人生徒)・スクールケアサポーター・児童委員の先生
 内容: 宿題支援・教科すごろく・漢字カード・英語トランプ・都道府県カルタ・国旗カルタ・日本地図パズル・校外学習下見・市内目的地までの道案内

2015年4月～2016年3月
 週1～2時間 小学校での放課後支援
 仲間: 同級生(日本人)数名・担任・支援者
 内容: 漢字プリント・算数プリント

☆ 3年生の漢字(書き)、5年生の漢字(読み)までは、ほぼできるように。

けっこう役に立った!

楽しかった!

やる気が出た!

視覚化

対話中心

日中両言語使用

A君のペースで音読や辞書引き、タイピング練習を行うこと

「週に何時間ぐらい来てくれるの?」(5年生1学期) → 「来てもいいし、来なくても大丈夫」(6年生3学期)



支援が減って不安。(2014年4月)



パネルディスカッションで急にパネルリストに。ノートで顔をかくし、小声ながら、やりきる。(2014年9月)



「とっておきの一枚」スピーチ目標: 大きい声 → 成功!(2015年1月)

<録音・録画>



教科書の内容理解、ほぼ問題なし。(2015年5月)



クラス会議の司会に立候補!(2015年7月)



漢詩「春曉」を中国語で朗詠(2015年9月)、クラスの句会で自作の俳句が得票数第1位(2016年1月)など活躍できた。

5. DLA結果 (全体:ステージ4→ステージ5)

<録音>

5年生2学期→6年生2学期

語彙力 日本語91%→100% 中国語96%→94.5%
 <話す> 3.4 → 3.9 ステージ 5 → 5
 <読む> 2.4 → 2.9 ステージ 5 → 5
 <書く> 2.6 → 2.6 ステージ 4 → 4
 <聴く> 3.6 → 4.4 ステージ 4 → 5

6. 考察と今後の課題

授業に積極的に参加することは、支援を得てできるようになった。一方、音読のスピード、書くこと、漢字、表記、暗唱(長いものには配慮が必要)、複雑な感情の表現や文章の要約等、まだまだ困難がある。他教科の用語の記憶、固有名詞の聞き取りも不安材料だ。

10年後、児童生徒がいきいきとアイデンティティーを活かして活躍できることを大目標に、支援者はスキルの向上に努めたい。